

⇒議案などを本会議以外場で、より詳しく審査・調査するための組織。富士宮市議会には、3つの常任委員会が組織されており、全て議員のみで構成されています。

総務文教委員会

所管事務調査

- 富士宮市富丘交流センター条例制定について
- 市内小・中学校の就学指定校の変更と現状について

【松永 孝男 委員長のコメント】

富丘交流センターは、令和3年4月の供用開始を目指して工事が進められています。今回の委員会では、使用規則や使用料など運用のための条例を審議しました。富丘公民館より駐車場も広くなり、証明書の発行や図書館の機能もあり、とても便利になります。完成が楽しみです。

小・中学校の就学指定校の変更と現状については、昨今部活等の理由で指定校区以外の学校に通う子どもが増えています。小規模校・大規模校それぞれにメリットがあります。それぞれの特徴を生かして地域の皆様と一緒に子どもたちを育てていきましょう。

環境厚生委員会

所管事務調査

- 富士宮市立病院の事業報告について
- 富士宮市が目指す地域循環共生圏について（政策課題）

【中村 憲一 委員長のコメント】

市立病院は、市民の皆様にとって重要な救急医療、高度医療等の不採算部門を担っているため、総務省の繰出基準で一般会計からの繰出金が認められており、従来はその額を9億円としてきました。しかし、キャッシュフロー（収入から支出を差し引いて手元に残る資金の流れのこと。）が大変厳しい状況にあるため、令和元年度より5億円増額し14億円となり、その内容が総務省基準内であることを確認しました。今後の収支改善策として、外部の専門家から経営指導を受けるとのことです。

また、富士宮市地域循環共生圏推進協議会の進捗状況を調査し、事業提案に応じた7つの部会の活動内容の説明を受け、当市の環境課題解決には、“水”に関連した再生可能エネルギーの推進が重要であることを確認しました。

産業都市委員会

所管事務調査

- 滞在型観光について（政策課題）

【植松 健一 委員長のコメント】

政策課題である「滞在型観光について」の勉強会を行いました。内容として観光宿泊施設の現状の把握を行うため大規模なキャンプ場である、ふもとっぱらを訪問し誘客状況や来場者の動向について説明を受けました。現状として、様々なメディアの影響により今キャンプブームであり、年間を通して週末だけでなく平日でも利用者が多く、また週末は利用枠を設けて予約制にしている程の混みようであるとのことでした。

その後意見交換を行い、現状と課題や今後の展開について話し合いました。多くの委員から滞在型観光として自然豊かな富士山の麓でのキャンプを一時のブームに止めずもっと発展させていくべきとの意見が出されました。